

■村田清風 藩政家、教育家。長州藩の天保改革を遂行も保守派反発で破綻、致仕後も高杉晋作らを育成し維新への原動力に。
むらたせいふう
蘭学階梯・・1783＝ 長門国大津郡三隅村で、萩藩士村田光賢の長男に生まれる。幼名亀之助。

田沼意次失脚1786＝ 3歳： 祖父為之が御前仕組方で藩財政再建に当たり、父も蔵元役を務める家系に育ち、
初の横綱・・1789＝ 6歳：祖父が死去して、父が家督を相続。

ヲクスマン来日・ 1792＝ 9歳：
松平定信引退1793＝10歳： 私塾を遍歴して勉強した後、
昌平黌始・・1797＝14歳：藩校〔明倫館〕に入館、国学・兵学も学んだが、
宣長没・・・1801＝18歳： 毎朝萩に通勤する父から生きた歴史を教えられながら、20kmの道を通学、
膝栗毛始・・1802＝19歳：義兄松浦忠左衛門に同行して江戸見習いに出、松平定信にも謁見して感動し、塙保己一にも学ぶ。

フートン号事件 1808＝25歳：明倫館を退館。藩主毛利斉房の小姓役となり、以後、5代の藩主に仕え続けることになる。
・・・・・1810＝27歳：要職の右筆役・密用方に勤めて、兵学を研修、
黒住教・・・1814＝31歳：異船防御方に参画し、大小筒による神器陣編成を指導、
杉田玄白没・1817＝34歳：萩菊ヶ浜での第一回神器陣操練で、藩主に随行、
水野忠成老中1818＝35歳： 群書類従完結1819＝36歳：父の死去により家督を継ぐ。
伊能図完成・1821＝38歳：御用所右筆、
ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝41歳：当職手元役を命じられ、経費引締め策に当たるが、
異国船打払令1825＝42歳：郡奉行兼任、
役人・奥方の激しい抵抗にあって、
日本外史・・1827＝44歳：失意のうちに辞任。藩主からは直ぐに、江戸屋敷の財政管理に当たる矢倉方頭人に任命されるが、
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝45歳：
富嶽流行・・1830＝47歳：役人らのその場しのぎのやり方に憤慨し、病氣と称して籠居。今度は撫育方頭人に任命され、
富嶽三十六景1831＝48歳：＜天保大一揆＞後の藩政混乱のなか、さらに表番頭格の当役用談役に就任したが、財政改革が容れられず、
鼠小僧磔・・1832＝49歳：辞任し帰郷。この年の＜山口・三田尻の皮騒動＞を発端に、
長州藩全域に百姓一揆が拡大し、各所で産物会所・特権商人・村役人が打ちこわしの対象となった。

大塩平八郎乱1837＝54歳：毛利敬親が襲封して藩主になると、
適塾オープン・ 1838＝55歳：*地江戸両仕組掛兼家老顧問役に抜擢され、中級武士から一気に一代家老となり、
蚕社の獄・・1839＝56歳：財政仕組掛選任となって、藩政改革に着手。
勧進帳初演・1840＝57歳：敬親の二度目の入藩後、江戸当役座用談役を兼ね、長州藩の＜天保改革＞が本格化、
保守派の坪井九右衛門らとの激しい政争の中で、米入札・相場所・御所帯御内用産物方・藍会所を廃止し、
城下町特権商人を抑えて藩借財を事実上帳消、専売制の改正・越荷方を設置、
天保改革始・1841＝58歳：提言して前年に出された「文学興隆令」に基づき江戸藩邸に設けられた〔有備館〕の総合大学化施策に対応、
天保改革弾圧1842＝59歳：高島秋帆のオランダ砲術演習偵察のため、藩士を長崎に派遣、
順天堂始・・1843＝60歳：「公内卓見三十七か年皆済仕法」を断行するなど、豪農・村役人層と結んで財政再建に努力する一方、時代を見通す卓見を持つ憂国の志士でもあって、健康が衰えるなか、郷里の旧宅に私塾〔尊聖堂〕を開く一方、羽賀台で実践的な大演習を実施するなど、海防にも力をいれ、
天保改革終・1844＝61歳：*保守派の反発と幕府の介入による財政破綻で、江戸手元役を辞任、ついに藩主への仕官生活も終り、
阿部正弘首座1845＝62歳：郷里に帰る。
孝明天皇・・1846＝63歳：
藩政は保守派の坪井九右衛門が掌握したが、その後も、私塾に演習場を設けて後進に海防を説き続けて「戦館さん」と呼ばれ、周布政之助・高杉晋作らが育ち維新変革への原動力となって行く。
万次郎帰国・1852＝69歳：「病翁宇波言」「物頭心得条々」などの政治録や、
ペリー来航・1853＝70歳：「長夜の寝言」「漁翁若話」「海防糸口」などの、海防論を書き続けるなどして、威信を保ち、
安政大地震・1855＝72歳：周布政之助に請われて再起したが、自宅で中風が再発し、没した。